

Abstract

現代の海上作戦から見たる海戦法規の課題

吉田靖之（海上自衛隊）

本論は、「海戦法規の現代的意義」という大テーマへの準備作業として、現代の海上戦闘の様相に鑑みた既存の海戦法規が内包する諸問題を把握するものである。本論では、まず根本的な問題として、*jus ad bellum*の変更に伴う海上中立及び海戦法規と海洋法の交錯に関する論点を検討する。この論点では、自衛権の枠内での第三国船舶への捕獲権行使の範囲及び平時一元下での海戦法規と海洋法との適用区分が主たる検討事項となる。次に、主要海軍国全てが参加して戦われた第2次世界大戦の実行を評価する端緒として、海戦における目標区分原則の展開について概観した後、技術の進歩が海戦の手段・方法に及ぼしている影響を検討する。ここでは、既存規則が今日の海戦を律する上での法的問題が主要論点となる。最後に、今日の海戦において環境保護が*jus in bello*に及ぼす影響は軽視できないことから、海戦における環境保護についての論点を抽出する。

『国際安全保障』第34巻第2号（2006年9月）、81 - 100ページ